

ブドウ栽培における新梢管理装置の導入効果

【要旨】

ブドウの栽培期間中に新梢管理装置を稼働させることで、副梢の伸長が抑えられ、副梢管理作業時間が半減しました。 #ブドウ#新梢管理#作業時間

ブドウの新梢（副梢）管理は、果実品質向上や結果母枝の充実のために大切な作業で、栽培指針では約10日ごとに行うことが望ましいとされています。一方で生産現場では労力不足から副梢管理を適期に実施できない事例もあり省力化が求められています。そこで、副梢管理の省力化を目的とした新梢管理装置の導入効果を調査しました。

【新梢管理装置の設置および稼働時間】

‘デラウェア’および‘シャインマスカット’を栽培するハウスに新梢管理装置（図1、商品名：楽梢さん）を設置（棚上 20～30cm）し、両品種における副梢管理作業の省力効果や果実品質を手管理と比較しました。新梢管理装置の稼働期間は新梢（結果枝）誘引後（4～5月頃）～秋季（10月末）としました。



図1 ブドウハウス棚上に設置された新梢管理装置
右上：伸びてきた副梢に傷をつける加傷部材（バッカー状になっており、単管パイプに取り付けて使用する）
右下：加傷部材に傷つけられた副梢先端

【副梢伸長の抑制および副梢管理作業時間の削減効果】

‘デラウェア’の副梢長を経時的に測定したところ、新梢管理装置区で伸長量が少なくなり（図2）、‘シャインマスカット’でも同様の効果が認められました。また、本装置を稼働させることで‘シャインマスカット’の副梢管理時間を約50%削減できました（図3）。

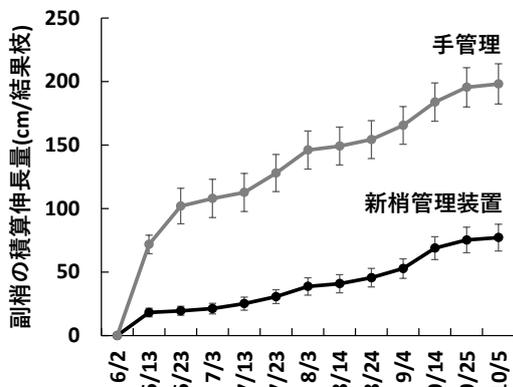


図2 ‘デラウェア’副梢の積算伸長量の比較

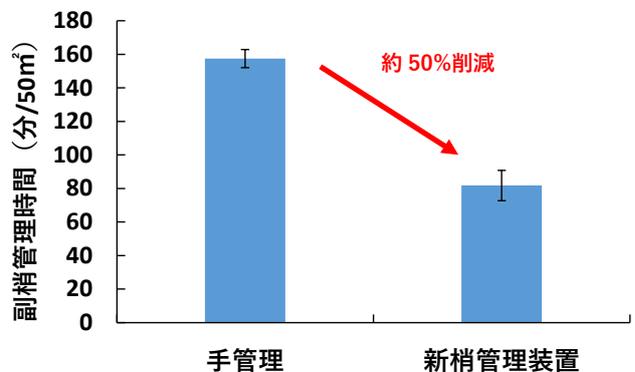


図3 ‘シャインマスカット’ほ場における1シーズン当たりの副梢管理時間の比較

【重点推進事項】新規自営就農者の確保・育成、中核的な担い手の確保・育成

【問い合わせ先】栽培研究部果樹園芸科 三島 晶太